

AR 台本

製作

SUNRISE
バンダイビジュアル

THE ガンダム

43

ACT:19

Eyewitness

注意

サンライズアニメ制作資料です。
無断で複製、有償・無償譲渡、貸与、
交換等した場合は、法律により罰せら
れる場合があります。

修正済



『神の名においてこれを鑄造する。汝ら罪なし』

〈12世紀のドイツの死刑執行人達の刀剣に刻まれた文字より〉

Table of Contents

Chapter I	Introduction	1
Chapter II	General Principles	15
Chapter III	Mathematical Methods	35
Chapter IV	Physical Principles	55
Chapter V	Experimental Methods	75
Chapter VI	Results and Discussion	95
Chapter VII	Conclusions	115
Chapter VIII	References	135
Chapter IX	Appendix	155
Chapter X	Index	175

音響効果	庄 司 雅 弘 (フィズサウンド)
録 音	はた しょうじ
録音スタジオ	スタジオごんぐ
音響制作	楽 音 舎
音響制作担当	杉 山 好 美

ビデオ編集	キュー・テック
-------	---------

制作デスク	田 村 一 彦
アシスタントプロデューサー	石 川 達 大
プロデューサー	杉 田 敦
	内 田 健 二
	大 橋 千 恵 雄

THE 超電磁ロボ

ACT:19

Eyewitness

脚 本	小 中 千 昭
絵コンテ	喜 多 幡 徹
演 出	喜 多 幡 徹
キャラ作監	
メカ作監	
制作進行	福 嶋 清 佳



ACT: 19

Eyewitness

Small text block containing several lines of faint, illegible characters, possibly a list or a short paragraph.

C A S T

ロジャー・スミス	宮 本	充
R・ドロシー	矢 島	子
ノーマン	清 川	夢
ダン・ダストン	玄 田	章
エンジェル	篠 原	美
フレディ		
サム		
フィール		
ビッグイヤー	辻	親 八
部下 ①		
部下 ②		
警官 ①		
警官 ②		
警官 達		
店主		
老紳士		
受付者		
女 記		

画 面	音 声
<p>1 F I ドクロの様な 廃車のフレーム 大型のプレス機がつぶす</p>	<p>(S E) ウイーン バキバキバキ</p>
<p>2 プレス機が上がる サム、後を向き叫ぶ</p>	<p>サム ガガガガ 「オーケイ、ファイル、これで今日はお 終いだ」</p>
<p>3 体をきしませて廃車をかっ いで来るアンドロイド</p>	<p>(S E) ギツ、ギツ、ギツ、</p>
<p>4 プレスの前まで来る。 その向こうプレスされた 車体持ち上がって行く</p>	<p>サム ギギギギ 「ん、油が切れた様だな」</p>
<p>5 アンドロイド ファイルに向く</p>	<p>ファイル 「ええ、あと25時間稼働したら潤滑油 不足となります」</p>

12	11	10	9	8	7	6
転がる古タイヤ	ふつとぶ作業場	ファイル爆発 ふつとぶサム	矢尻ピカピカ点滅 カット尻強力に発光	駆け込み穴の底を見るサム うつぶせになるファイル 背中に矢が見える	のけぞり車を後に落とす ファイル よろけ、プレス機へ落ちる	矢が飛びきてファイルに命中 ダミ声で笑うサム
(SE) ゴロゴロゴロゴロゴロ	(SE) ドドドーン	(SE) ドドーン	ピコーン、ピコーン、ピコーン カツ ← ←	サム (滑) 「ファイル！」 (SE) ピコーン、ピコーン、ピコーン	サム (SE) (off) 「ファイル！」 ゴトン!!	サム (SE) 「心配するな、ちゃんと後で入れてやるって」 ズコーン

18	17	16	15	14	13
<p>プレス機の穴の中バラバラになったフィルの破片</p>	<p>こわれた作業場 PD ダストン 部下の報告を聞く</p>	<p>ひしめくパトカー にが虫のダストンIN 帽子のひさしを上げる</p>	<p>燃えるサムの作業場 FO</p>	<p>ボウガンをかまえた男 チャツと構えを解き、立つ</p>	<p>転がっていくタイヤ 廃車に当たって止まる その向こうに人影</p>
<p>ダストン (off) 「オーナーは？」 (off) 爆発前にオーナーが見ています</p>	<p>部下① (off) (on) 「手口は同じです。恐らく同じボウガンで発射されたパイプ爆弾が凶器です。」</p>	<p>ダストン「……」</p>	<p>(SE) バタン!! (ドア閉じ、人おりる)</p>		<p>ゴロロロン!</p>

30	29	28	27	26
<p>ポンコツ車の山なめて対峙するダストンとフレディ</p>	<p>帽子を取るフレディ 声色に少しほほえみを たたえて</p>	<p>驚き指差すダストン フレディ頭を下げる</p>	<p>感触に驚きダストンの手 はなれる</p>	<p>ダストンのつぶやきに答えるようにフレディIN エツとダストン フレディ、握手を求める。 ダストン ムツ： 力まかせに握る</p>
<p>ロジャー(N)「ここは記憶喪失の街。人とアンドロイドは共にメモリーを失い、ここ</p>	<p>フレディ「R・フレデリック・オライリー。 フレディと呼んで下さい」</p>	<p>ダストン「お前は——？」</p>	<p>ダストン(off)「——！」</p>	<p>フレディ「あなたの捜査を邪魔しに来たのでは ありません。」 ← ダストン大佐</p>

㊦

35	34	33	32	31
エレベーター内のドロシーが体の上を通過していく	降下するエレベーターの針	オイル缶を持ったドロシーカードを受取りポケットへ	ノーマン ニツコリ笑って言うてからクレジットカードを渡す	ロジャー邸

で生活している。四十年前も人とア
ンドロイドは今の様な関係だったろ
うか——」

ノーマン「オイルは最高級のモノを遠慮しない
で。」

← それから街には今アンドロイドクラ
ツシャーがいるという噂だから、

← 充分
← (off) 気をつけて
ドロシー「わかったわ」

(SE) ゴトン、ゴトン

← ゴトン、ゴトン (不気味な連続音)

40	39	38	37	36
<p>フレディと視線を合わせようとしないうダストン</p>	<p>外を見ているダストン 外には工事ロボ ダストン ブラインド閉める</p>	<p>工事ロボが作業中 工事ロボが作業中</p>	<p>鉄骨にリベットを打つ PAN 打つ</p>	<p>古びたコンクリートパネルを持ち上げる工事ロボの マニピレータ― 入れ替わってリベットガンが手前に迫る</p>
<p>前例が無い事をする程、パラダイムは今回の事件に関心が深いという事</p>	<p>フレディ(off)「私が最初です。少なくともこの四十年の間では」 ダストン「――なるほど。」</p>	<p>ダストン(off)「アンドロイドの査察官がいたとは」 (SE) ダ・ダ・ダ・ダ</p>	<p>(SE) ダ・ダ・ダ・ダ (間) ダ・ダ・ダ・ダ</p>	

41	42	43	44	45
<p>フレデイなめダストン</p> <p>フレデイの言にムツと向き、 勢い良く立つ。</p>	<p>ダストン ノブに手をかける 声に手が止まる</p>	<p>向くダストン 後で帽子をかぶるフレデイ</p>	<p>フレデイ</p>	<p>ダストン(背) じつと聞く。 ガマンも限界に来て向く。</p>
<p>か</p> <p>フレデイ(背) 「それに付け加えるなら、私がこの 仕事をこなす筈だという信頼を得ら れる程優秀だという事です」</p> <p>ダストン 「——」</p>	<p>フレデイ(off) 「同行させていただきませす」</p>	<p>ダストン 「——！」</p>	<p>フレデイ 「あなたは現場主義者だそうですね。」</p>	<p>(off) 部下に任せないのは、それだけ信用 できないのですか？」</p> <p>ダストン 「——たしかに頼りない連中だが、</p>

51	50	49	48	47	46
一杯に注がれるオイル コックを止めて缶に蓋する。	オイルバー PD カウンターの前でオイルを 待つドロシー	ダストン廊下に出ると きおつけをする警官達 踵を返して歩くダストン 続くフレディ 一斉に喜びを表す警官達	後退りする警官達	ドアを荒く開けるダストン 一步踏み出して止まる	フレディ
		警官達 「(歓声等 AD)」	警官達 「——」	(off) (on) この街を守る為に命を張ってるんだ。 (止まる) ——!?	(off) この者はドームの内側外側に関係 なく ←

57	56	55	54	53	52
重い缶を片手で楽々持って	レジのキーを打つ店主 明細書を破く その間に持ち上げられる缶。 明細とカードを持って振り 返りギョツとなる店主。	カードリーダーに通す店主	店主 汗をふきカードを 受取りレジへ向かう	ドロシー カードを出す カウンターに置かれる缶	重い缶を両手で持って、 カウンターまで上げる店主
店主 (off) 「……しし	店主 (on) もちろん別料金、ん っ?」	店主 (音) 「フッ。 カード、カードつと	店主 (音) 「フッ。 カード、カードつと	店主 (off) 「980クレジットだ よ」	店主 「うううう…… うううんしよつと
	(SE) カチャ ビリリツ	(SE) ピーツ		(SE) ドン	

64	63	62	61	60	59	58	
ドロシーなめビルの屋上	歩くドロシー 気配に止まり、向く	屋上 追う人物の足元	てくてくオイルバー街を歩 くドロシー	店から出るドロシー 屋上の人物 ドロシーを追う	もの薄い勢いで サインするドロシー 驚く店主	明細とペンを出す店主の手	いるドロシー P U
				店主(off) 「まいど——」	店主 「!!」	あゝ…サインを」 ← ←	

70	69	68	67	66	65
<p>高級住宅街路肩のパトカーからPAN 屋敷の庭に立つダストン、フレディ、</p>	<p>壁に貼られた書類の中にサムとフィルの写真</p>	<p>聞いているロジャー 仕事を受けるか考え中： ふと壁に目がいく</p>	<p>サム 宙をみつめたまま</p>	<p>包帯だらけでベッドのサム。 事務イスにロジャー。</p>	<p>ポンコツ屋サムの作業場 廃車の中にグリフォン</p>
<p>老紳士 (off) 「ボーマンがアンドロイドである事など、普段は気にした事など も なかった。」</p>	<p>ロジャー (off) 「—— 判った。軍警察との交渉、引き受けよう」</p>		<p>違うなんて、誰が証明出来る」</p>	<p>(on) だがな、ひよつとしたら、ひよつとしたらだが、俺の錆びついた頭の中に、アンドロイドを修理できるメモリがあるかもしれん。</p>	<p>サム (off) 「勿論、俺にあいつを直せる技量なんてありやしねエ。」</p>

76	75	74	73	72	71	老紳士
<p>エツとなって、フレディを 向くダストン</p>	<p>笑みをかえす老紳士</p>	<p>ダストン 写真を見つめて 同情といたわりの笑み</p>	<p>ダストンの書類に老紳士と アンドロイドの写真</p>	<p>アンドロイド爆破でできた 穴を見る老人、向く</p>	<p>書類を片手に聴取している ダストン</p>	
	<p>老紳士 「あなた方もそうであるといいですね」</p>	<p>ダストン 「——。 良い関係でしたな」</p>	<p>(off) 共に助け合って生きていたに違いな いと：「</p>	<p>老紳士(背) (on) 「よく冗談で話し合ったものです、 四十年前には私もポーマンも貧乏で、</p>	<p>(on) ポーマンは、自分が失ったメモリー について、何かあなたに話していま せんでしたか」</p>	<p>ダストン (off) 「ご心痛をお察しします。」</p>

80	79	78	77
ダストンなめフレディ	パトカーを挟み対峙の二人。 ちよいにらみ合う おもむろにドアを開ける ダストン	歩道と車道に別れて歩く ダストンとフレディ 二人の間にパトカーが割つて入る 止まる二人の足	フレディ
ダストン(背)「俺の発言をメモリーに記録して いる」	ダストン「クソ喰らえだ」 フレディ「は？」	フレディ(off)「老人の感傷話しを聞く事が、事件の解決になるのですか」 ダストン(off)「長く人と共にいたアンドロイドは人の気持ちが判る様になるらしいがお前さんにそんな時は、あと四十年経っても来やしないだろうな」 フレディ(off)「——この犯罪を続けさせてはなりません。パラダイム社の幹部陣は早期の解決を望んでいます」	フレディ「……」 ダストン(off)「 それで 、 ミスターシモンズ 破壊される前の日のことをもう一度……」

86 まわる天井のファン	85 デイルの店内テーブルなめ 並んで座っているロジャー とビッグイヤー	84 高架なめデイルの店 グリフォンが停まっている	83 すれ違う高架上の電車	82 見つめたままのフレディ	81 ダストン大声で言っ て パトカーの中へ
ロジャー (off) 「だがアンドロイドは違う」	ビッグイヤー (off) 「四十年前の記憶を思い出した などとおかしな事を触れ回らなけれ ば、人間は命を奪われる事もない」	ビッグイヤー (off) 「この街は案外 と安全だ。そうは思 わないかね？ ネゴ シエーター」 ゴトン ゴトン ゴトン ゴトン	(SE) ガ	(SE) バン！ (閉じるドアの音)	(on) 録音を聞いている奴に言ったのだよ るんだらう？ アンドロイド君。 ←

<p>92</p> <p>ボウガンのレバーを下げて 弦をひく手</p>	<p>91</p> <p>んつと向くノーマン</p>	<p>90</p> <p>帰ってくるドロシー</p>	<p>89</p> <p>ビッグイヤーUP</p>	<p>88</p> <p>ロジャーUP</p>	<p>87</p> <p>ファンなめロジャーと ビッグイヤー</p>
<p>(SE) ジャツキーン ←</p>	<p>ノーマン「——」</p>	<p>(off) アンドロイドにそれが無い、なんて 誰が証明出来るかね」 ←</p>	<p>ビッグイヤー「人間だってあるだろう？ デジ ヤヴー。」 ←</p>	<p>ロジャー「——それが、連続アンドロイド爆破 の動機だと？」</p>	<p>(on) だからと言って、メモリーそのもの が無かった事にはならない」 ←</p> <p>ビッグイヤー(off)「パラダイムの科学部門ですら、 アンドロイドの失われたメモリーを 甦らせる事は出来ない。」</p>

	105	1 04	1 03	1 02	101	100	
O L	ドロシー主観 屋上にTU	腰の矢を見つめるドロシー。 あわてて抜こうとノーマン。 矢の来た方を見るドロシー。	歩道に落ちてオイルをぶち まけながら転がる缶	腰に命中 磁石でくつつく ドロシーに飛ぶ矢の主観 気付くドロシー！	屋上から飛んでくる矢	引かれるトリガー	何かを捜すドロシー
		ノーマン「ドロシー」	(SE) ガンガロガローン	(SE) ヒュルルルルルルル ズバツ！	(SE) ビヒュー	(SE) チツ	

113	112	1 11	110	1 09	108	107	106
ドロシー、沈み込む！	ノーマン、くそつと向く	矢を握る手 矢が点滅開始	ノーマンなめドロシー	ノーマンを見るドロシー 必死に引張ってるノーマン	逃げるスナイパー	ドロシー 見つめたまま	立ち上がるスナイパー
ドロシー「ノーマン！」	ノーマン「くっ！」	← ← 「 （SE） ピコーン ピコーン	ノーマン「んんん…	ドロシー「ノーマン離れて」		ドロシー「ノーマン」	

120	119	118	1 17	1 16	1 15	114
矢を出し構えるドロシー	前方、曲がるトレーラー	後ゲリでガラスを割る	ドロシー、屋根から立つ 足を上げ、	曲がる車の屋根に着地。 蛇行する車	着地するドロシー 左を見て跳ぶ。 追うノーマン	バク転で離れるドロシー
		(SE) 運転手「ズガーン ひっ!!」		(SE) ドーン	ノーマン「ドロシー!!」	ノーマン「!!」

128	127	126	125	124	1 23	122	121
すれちがうトレーラーと車	近づくトレーラーと車	迫るドロシー 矢までUP	あせるトレーラーの運転手	矢の点滅が早くなる	ドロシー 右足でハンドルを操作する	ドロシーの車が迫る	驚くトレーラーの運転手
		(SE) ピコーン、ピコーン、ピコーン…	トレーラー「 運転手 ああ…あ… 」	(SE) ピコーン、ピコーン			トレーラー「 運転手 うあ… 」

1 34	1 33	1 32	131	1 30	129
<p>ダストーンなめ睨むロジャー。 ダストーン、抑揚無く答える。 ロジャー 拍車がかかる</p>	<p>机をたたく音 一点を見て耐えるダストーン。</p>	<p>FO 呆然のノーマン 舞う破片</p>	<p>両車の間で爆発</p>	<p>フカン すれちがう両車 宙に舞う矢 ちよつと落下し爆発</p>	<p>矢 トラックにぶつかり離れ</p>
<p>ロジャー「なら視覚メモリーをコピーすればいい。なぜドロシーを拘束しておく」</p> <p>ダストーン(背)「Rドロシーは唯一の目撃者なんだ。犯人の姿を彼女は見ている」</p>	<p>(SE) バン! ロジャー(off)「どういう事だ、ダストーン！」</p>	<p>ノーマン「ドロシー……」</p>	<p>(SE) ドド——ン</p>	<p>(SE) ピコーン、ピコーン、ピコーン…… ドド——ン</p>	

1 39	138	1 37	1 36	1 35	
肩を震わせるロジャー	激昂するロジャー	フレデイ	ロジャー怒り再燃 制してフレデイ	入り口のフレデイ 室内に入ってドアを閉じる	声に向くロジャー PAN 入り口にフレデイ
フレデイ「パラダイムシティの市民の一人として、捜査に協力する事が、あなたの名誉回復となる道ではありませんか」	ロジャー「!!」	(on) あなたは不名誉な事案が原因で軍警察を辞めたそうですね	ロジャー「ドロシーは私の——」 フレデイ(off)「ロジャー・スミス。」	フレデイ「私達はアンドロイドクラッシュヤーを逮捕し、二度と事件を起こさせない事が最大の急務です。 なぜ、Rドロシーが狙われたのか、深い理解をする必要があります」	フレデイ(off)「真にお気の毒ですが——」

144	1 43	1 42	1 41	140	
ロジャーなめダストン	ダストンなめロジャー	落ち込んだノーマンを労う ロジャー。その向こうで座 っているドロシー ダストンIN	脇に警官だった頃のロジャ ーとダストンの写真	黙ったままのダストン	怒り講義するロジャー ダストンへ向くロジャー
ダストン「ん？ 何かあるのか」	ロジャー「（意味あり気に）——パラダイムか ら査察官が来ているとはね」	ノーマン「面目次第もございません。私が側に おりながら：」 ロジャー「気に病むなノーマン」 ダストン「なるべく早く帰す：」			ロジャー（憎）「パラダイムの記録ではどうなって いるかは知らないが、私は自分の意 志で辞めたのだ！」

149	1 48	1 47	1 46	1 45
敬礼を決めたダストン	ダストン敬礼、はねつける。	ロジャーとダストン	ダストン 近付く足音に気付く	ロジャー ちよつと考えあぐねて
	ダストン「御協力に感謝する」	ロジャー「ダストン、私はある人物の依頼を受けている。廃車工場で破壊されたア ンドロイドの残骸を引き取りたい」	ダストン「!? 何だって (気付く) ——」	ロジャー「アンドロイドを破壊して楽しむ奴に —人心当たりがあつたのだが——」

155	154	153	152	151	150
モニター なじみの花屋	ひっかかるダストン：	モニターに記憶が現われる。 それはピアノ鍵盤： ダイヤルを回すと早送り 朝食のロジャー： さらに早送り オイルバーの店主：	ヘッドギアつけたドロシー	機械のダイヤルをまわす フレデイの手	取調室のドロシー その向 こうガラス越しにフレデイ とダストン
	ダストン「——！」			(SE) ウイイイイイイ—— ← ← ——ン	ダストン (スピーカー) 「ドロシー、もし……」 ドロシー 「気にしないで大佐。はずかしくなん かない」

162	161	160	1 59	1 58	157	1 56
モニターのスナイパー	モニターを見る二人	フレディとダストン	モニターにスナイパー 寄って止める	見つめるダストン おっと乗り出す	フレディ 濁す：	ガラス越しのフレディ 思わず感想をもらす 映ってるドロシー、向く。 フレディ、言葉につまる
		ダストン 「——こいつが……」		ダストン 「…… (おっ) !!」	使命を果たす為に存在しています」	フレディ (スピーカー) 「君は芸術品だね、R ドロシー」 ドロシー 「あなたは？」 フレディ (スピーカー) 「——私は——、

1 68	167	166	1 65	1 64	1 63
車に 来る ロジャー 気付 いて 止まる	地下 駐車 場 歩 くロ ジャー	受付 の胸 元に 名刺	ロジャー 無然 名刺を 取り 上げ、 受付 の胸 元に 差し、 去る。	受付 型だ け微 笑み	パラ ダイ ム本 社 来る ロジ ャー の車
			ロジャー「 フン! 」	受付 「お 教え 出来 る情 報は ござ いま せん」 ロジャー「だから！ 所在 を教 えて くれ と言 っ てい るの だ」	受付 「ミ スタ ー・ アレ ック ス・ ロー ズウ オ ータ ーは 、現 在ヴ ァカ ンス を取 られ てお り、 お会 いで きま せん」

1 69	1 70	1 71
<p>車内にエンジェル</p> <p>ドアを開けるロジヤー 無視して閉める エンジェル 勝手に喋る</p>	<p>ロジヤー</p> <p>声に向く</p>	<p>カーリフト上昇</p>
<p>(SE) ガチャ (開け)</p> <p>(閉め)</p> <p>エンジェル「アレックスは今、パラダイムには いないわ」</p>	<p>ロジヤー「優雅な身分だ。だが、私が本当に今 会いたいの——」</p> <p>エンジェル(off)「アラン・ダイブリエル？」</p> <p>ロジヤー「——」</p>	<p>(SE) ゴトンゴトンゴトン</p> <p>エンジェル(off)「アランもアレックスと一緒に。だ から、連続アンドロイド破壊事件に ついてはアリバイがある……」</p> <p>ロジヤー(off)「——どこへ行っている」</p> <p>エンジェル(off)「多分——、遠くよ」</p> <p>ロジヤー(off)「——そうか……。アンドロイドの査 察官を派遣したのは、アレックス自 身では無かったという事か……」</p>

1 74	1 73	1 72	
<p>門開く</p> <p>リフト到着 ブザーと共にゲート上がり、</p>	<p>エンジェル</p>	<p>リフトゲートなめロジャー</p>	
<p>ロジャー「どういう意味だ」 (SE) ゴゴーン (SE) ブーツ(ブザー) (SE) ガラガラガラガラガーツ</p>	<p>エンジェル「——ええ、そうよ——。哀れむの？ あなたと大差無いと思うけど」</p>	<p>ロジャー「嘘をつき続ける。自分の名前も捨てて。そういう生き方、自分で望んだのか？」</p>	<p>エンジェル(off)「——どう、かしらね……」 ロジャー(off)「アレックスが今行っているのは、君が生まれた所、か？」 エンジェル(off)「(微笑)いやね、ロジャー・スミス。私はこの街で生まれ育ったのよ？」</p>

1 79	1 78	177	176	1 75
浜辺の二人と車 T B	エンジン （音） 声に向く	車から見るロジャー	砂浜 エンジエルの足に波	海、座礁した船

エンジン (off) 「何故自分が、自在にメガデウス

を操る事が出来るのかという事、どこかに棚上げしているのを忘れてない？」

ロジャー (off) 「——（苦笑）忘れてやしない。だが、それもそろそろ埃を吹いて外に出してやろうと思っっている所さ」

エンジン (off) 「私も……」

ロジャー (off) 「困ったものだな」
エンジン 「え……？」

ロジャー (音) 「私は若く美しい女性には深い尊敬の念を以って接する事を信条としている。だが君とは、出会った時から厄介が常に取り巻き、君に対して私

まはらう

1 83	1 82	1 81	180
<p>と、車内より呼びだし 浜辺の二人</p>	<p>尻、大きな波が来る</p>	<p>ロジャー おだやかに</p>	<p>豊然と笑むエンジェル口</p>
<p>ロジャー (SE) 「ん?」 ピピピピ</p>	<p>エンジェル (off) 「いいの?」 ロジャー (off) 「何がだ」 エンジェル (off) 「私にそんなに心を許して」 ロジャー (off) 「——— どうだろう。判らない」 (SE) ザ——ツ</p>	<p>ロジャー (off) 「しかし——、我々は互いに共通点を抱えた者同志、らしい。共に困難に立ち向かう同志——」</p>	<p>エンジェル 「しかし?」 の信条は例外措置を取っていた。というより、君は私の中で警戒すべき人物だった」</p>

1 89	1 88	1 87	186	1 85	1 84
<p>店を包囲した警官達</p>	<p>二人の左右を警官が走る</p>	<p>集結するパトランプ ダストンとフレディ I N</p>	<p>見つめるエンジェル</p>	<p>モニタのノーマン</p>	<p>車内を覗くロジャー モニタにノーマン 無線機を取る</p>
<p>フレディ (off) 「何故この店を中心に網をはったのか？」</p>	<p>フレディ 「聞かせて下さい」 ダストン 「——？」</p>		<p>ロジャー (off) 「何？——案外と早かったな」</p>	<p>ノーマン 「先程、連続アンドロイド破壊事件の犯人が判明したと、ダストン大佐らが逮捕に向かいました」</p>	<p>ノーマン (off) (無線) 「お取り込み中申し訳ございません、ロジャー様」 ロジャー 「どうしたノーマン」</p>

1 95	1 94	1 93	1 92	1 91	1 90
ダ ス ト ン な め フ レ デ イ	フ レ デ イ な め 向 く ダ ス ト ン	オ イ ル 用 蛇 口 一 滴 …	ス ナ イ パ ー	店 内 タ ン ク の 奥 に 人 影	オ イ ル バ ー 入 口

ダ
ス
ト
ン
(off) 「シモンズのアンドロイドは、事件
前日、この店に高級オイルOR-437
の配達を発注していた。」

← Rドロシーもここで同じオイルを買
った帰りに襲われた。

← 更にサムもフィルがスクラップにな
る前日、オイルを買った。

← **ぼすえのポニツ屋が、アンドロイドのために、**
あのポンコツ野郎の為に高級オイル
をな…」

ダ
ス
ト
ン 「犯人は、オイルを手がかりに、高メ
モリーのアンドロイドを——被害者
を

← フレデイ「……」
(潜) 選んでいたんだ」

201	200	1 99	1 98	197	1 96
顔上げるスナイパー	窓なめ、来るフレディ	叫ぶダストン	歩くフレディ	歩いていくフレディ(背)	二人 と、警官 I N ダストン 命令 フレディ 歩き出す ダストン 驚く
	(off) お前さんも…!!	ダストン 「奴はアンドロイドを狙ってるんだぞ。」	フレディ(M) 「これ以上、罪無きロボットが、永遠にその意志とメモリーを奪われてはならない」		フレディ 「さすがですな大佐」 警官①(背) 「店内の油の供給の停止と抜き取りを終了しました」 ダストン 「無人突入口ロボットを先行させろ」 フレディ 「その必要はありません！」 ダストン 「何？ おい待て、オライリー 査察官！」

2 08	207	2 06	2 05	2 04	203	202
<p>オイルバー街入口 来るグリフォン P D</p>	<p>見上げるノーマン</p>	<p>押し問答の二人 と、地響き</p>	<p>やんわり拒否の警官</p>	<p>ノーマン胸元 やんわり懇願</p>	<p>見つめるフレディ</p>	<p>ボウガンを出す</p>
	<p>ノーマン「……？」</p>	<p>ノーマン「ですが！——」 (S E) ズン</p>	<p>警官②(off)「すみませんが、まだ指示が来てませ ん」</p>	<p>ノーマン(off)「犯人は特定されたのでしよう。ド ロシー嬢を連れて帰りたいのです」</p>		

215	2 14	2 13	212	211	210	2 09
ダ ス ト ン ！	フ レ デ イ 気 配 に 目 赤 く な る ほ え る (機 械 音)	構 え る ス ナ イ パ ー ス コ ー プ に 映 る フ レ デ イ	ボ ウ ガ ン の レ バ ー 操 作	走 る ダ ス ト ン	フ レ デ イ に 走 る ダ ス ト ン	パ ト な め グ リ フ オ ン ロ ジ ャ ー ハ ッ ！
ダ ス ト ン 「 — !! 」	(S E) ウ オ オ オ オ オ (キ ー ン)		(S E) ジ ャ ツ キ ー ン	ダ ス ト ン 「 オ ラ イ リ ー ! 」	ロ ジ ャ ー (off) 「 ダ ス ト ン !? 」	エ ン ジ ェ ル 「 こ れ で 一 件 落 着 な の ? 」 ロ ジ ャ ー 「 — 」

223	222	221	220	2 19	218	217	216
ボウガン、レバー操作	腕をちぎるフレディ	エツとスナイパー	肩からちぎれる腕	点滅するボウガンなめ 来るダストン 右腕掴むフレディ、力入れ	フレディの腕に命中	ガラスを貫くボウガン	トリガー引く指
(SE) ガツチャン!!			(SE) メリメリメリ	ダストン「オライリー!!」 フレディ(off)「下がって 下さい」	(SE) ズガツ	(SE) パリーン	
				(SE) ピコーン ピコーン ピコーン ピコーン			

231	230	229	228	227	226	225	224
取調べ室のドロシー 震動	ロジャー 駆け出す	ダストン 照り返し	ダストン 達なめ店内爆発	店内で爆発	ガラスを破る腕 迫る	スナイパー、構える	腕を投げるフレディ
(SE) ズーン	ロジャー「ダストン!!」	ダストン「!!」	オローン ←	(SE) ドツド	(SE) バリーン		

2 37	2 36	2 35		234	2 33	2 32
フレディなめダストン キレルダストン	フレディ	怒りのダストン フレディを掴む	瓦礫の下敷きのスナイパー	ダストン 何か発見	壊れた店内 PAN 立ちつくすダストン達	呟くドロシー TB 窓に巨大ロボット 赤いモノアイがIN
ダストン (背) 「犯罪者なら、人殺しをしたっていい ~	フレディ「アンドロイドに架せられた原則に背 く。	(on) このポンコツ野郎。 いくら犯罪者が相手だからって、人 間を攻撃するなんて!!	ダストン (off) 「くそ〜！	ダストン 「——！」	ダストン (背) 「なんて事をしやがった。お前は故 障していたんだな？」	ドロシー「——一人じゃ、ないんだわ……」

2 43	2 42	241	2 40	239	2 38	
来るフレディ 来るダストン	驚愕のダストン フレディをはなす フレディ、犯人に歩く あわてて追うダストン	犯人はアンドロイド。	警官と、犯人を起こすロジャー。帽子が落ちる。	ロジャーを見るダストン	警官のライトに照らされ、犯人を見てたロジャー	さらにシメる
ロジャー「君は、犯人に心当たりがあったのか？」	ダストン「アンドロイド!？」			ダストン「な、何だと？」	ロジャー「ダストン、彼は人を殺していない」	というつもりか

2 50	249	248	2 47	2 46	2 45	2 44
と、腕時計がなる ロジャー いさめる	ダストン 言い方が不満：	フレデイ	ダストン 怒りくすぶり	フレデイ、立ち、ダストンを見る	フレデイ、ロジャーに示し、ポツケに入れる。	犯人の頭を操作。 メモリー出て、掴む。
ロジャー「ダストン（よせ）——」 （SE） ピ——ッ	ダストン「貴様……」	フレデイ「気に触ったのなら謝罪します」	ダストン「これで終わりだ!! ふざけるな！ 何故最初から言わなかった」	アンドロイドを狂わせるユニットの 解析は、本社科学部門が行ないます」	フレデイ「私に課せられた使命はこれで完了で す。」	（SE） ピッピッピッ

ロジャー「フ。」

257	256	255	254	2 53	252	2 51
肘で斧箱のガラスを割る	破片の中、逃げる警官達	煙を上げる警察本部	驚くダストン、ロジャー	店外から慌てて来る警官	ロジャー 時計に叫ぶ	腕時計から緊迫した声
(SE) ガッチャーン		(SE) ブーン	ダストン「何だとツ!？」	警官① 「ダストン大佐!! 本部が襲撃を受けています!」	ロジャー「聞こえないぞノーマン!」	ロジャー(off)「どうした」 ノーマン(off)「(ノイズで切れ切れ)——ロジャー—— ——ドロシーが——てまして——が——」 <i>大変です</i> <i>様</i>

2 63	262	2 61	260	259	2 58
車内 ロジャー達	追い抜くグリフォン 俯瞰	オン 高速本線に飛び込むグリフ	おっとり驚きのノーマン	ドアを壊したドロシー	斧を取るノーマン 振りかぶる と、ドアが飛んでくる 固まったノーマン
ロジャー「犯人は一人ではなかった。何者かが、 アンドロイドやロボットを悪用して いるらしい」			ノーマン「おやおや…」	ドロシー「帰りましょう、ノーマン」	(SE) ドン バーン(倒れる)

2 69	2 68	2 67	2 66	265	264
<p>犯人の巨大工事用ロボ。 目がサイドカーを追う。 超信地旋回で方向転換</p>	<p>本部から飛び出すノーマン のサイドカー 追うキヤタピラ</p>	<p>怒るロジャー 顔戻す 時計を構え叫ぶ</p>	<p>エンジェルUP</p>	<p>見るロジャー</p>	<p>眩くエンジェル</p>
<p>(SE) ギユルルルル</p>	<p>(SE) ドドドド (SE) ウオオ〜ン、ギユルルルル</p>	<p>ロジャー「メモリーの為に、 見境いも無く——！ ビッグオー！」</p>	<p>エンジェル(♀) 優秀なアンドロイドのメモリーを 集めようとしている者が、この街に 来ている！」</p>	<p>ロジャー「？ 今何と言った」</p>	<p>エンジェル「——デルフォイ！」</p>

2 75	2 74	273	272	271	2 70
サイドカー 掴もうとする手。 次々よける	速度上げる パワーシヨベル I N	ノーマン達 見つめるロボット	ミラーに迫るロボット	疾走するタイヤ	坂を走るサイドカー ゆっくり追うロボット
(S E) ズズーン (S E) ズズーン	(S E) ズガン ドロシー 「私のメモリーを狙ってるの」 ノーマン 「あやつはどうやら、ドロシーを狙っている様ですな」				

1カット

2 82	2 81	2 80	279 * 278	277	2 76
手前に来るサイドカー ロボット、発砲	ミラーにロボット アクセル全開 遠のくロボット	避けるサイドカー もう一回	ロボットリベットガン発射	ロボット 怒りの音	傾いたサイドカー ドロシー、体重かけ戻す。
(SE) ギュー——ン ドドドド	(SE) ノーマン(off) 「逃げてばかりではちと芸がありません」 ウイ——ン	ノーマン(潜) 「おお!!」	(SE) ドドドドド	(SE) グオ——ン	ノーマン 「!!!」

2 89	288	2 87	286	2 85	284	2 83
止まるロボット（マニピュレーター破壊された）	股間を抜けるサイドカー	ロボットに命中 向かうサイドカー	ミサイル発射	ドロシーの座席が上がり、 ランチャー出る	ボタン押すノーマン	着弾を避けるサイドカー スピンスターンし、迫る
(S E) ギギッ		(S E) ヒュルルルル、ドカドカドカ ーン	(S E) ドドドドババ	(S E) バキヨン!!	(S E) ピッ	

2 96	295	2 94	2 93	292	291	290
迫るロボット 引いていくとビッグオー(背)	向くノーマン達	サイドカー ビッグオーの股間を抜ける	ドリルとチェンソー回転させ、追うロボット 正面見てハッとノーマン達	黒煙ふきバツクのロボット	煙消え、ロボット目玉回転	後を見るノーマン達
			(S E) ギューーン、ガイーン	(S E) シュゴーン	(S E) グオーン	

3 03	302	301	3 00	2 99	2 98	297
回転止まるドリルとチェンソー。OUT	ストライクパイル!	スイッチ押す	叫ぶ ロジャー	ジタバタのロボット キヤタピラ空転	ビッグオーのパンチがIN ロボットを止める	ドロシー
	(SE) ズーン	(off) ない!	ロジャー「間違った主人に仕えねばならなかった君には同情しよう。 私の本当の敵は、君では ←	(SE) ガガガガ	(SE) ガイーン	ドロシー「ロジャー」

310	309	3 08	3 07	306	3 05	3 04
昇っていく風船	ビッグオーの奥、赤い風船	見てるエンジェル 何か発見	倒れるロボット 手前、見てるエンジェル	ロジャーUP	ロジャー 自分の言葉にハッ！	倒れるロボット。モノアイ 消える
		エンジェル「——!!」	(SE) (遠く)ズズ〜ン	ロジャー(M)「それは、誰だ…」	ハッ… 本当の敵…	ロジャー(M)「私の…」

3 17	3 16	3 15	3 14	3 13	3 12	311
<p>驚くダストン 押さえた重い感じ：</p>	<p>ダストン、ロジャー達 フレディの台詞に ハッとなるダストン</p>	<p>メモリーを出す手</p>	<p>ダストンに歩くフレディ。 止まり、手もとから</p>	<p>ロボットの頭から出てくる フレディ</p>	<p>高速上 ロボット残骸 周りにパトランプ</p>	<p>エンジェル 不吉な予感：</p>
<p>ダストン「処理——、 お前さん自身がアンドロイド殺しと して来ていたのか：」</p>	<p>ダストン 「だ！」 アンドロイド自身で処理させるべき だと判断しました</p>	<p>フレディ(off)「パラダイム社は、 起こす不始末は、 ←</p>				

3 23	322	3 21	3 20	319	3 18
<p>残骸なめ、握手の二人</p>	<p>黙して語らずフレディ</p>	<p>ダストン 重大事実に気付く 初めてファーストネーム呼ぶ</p>	<p>出すフレディ手 握るダストン手</p>	<p>見つめるドロシー</p>	<p>フレディ 明るく言つて メモリーをしまふ。 語尾を濁す：</p>
<p>ダストン(潜)「お前さんは、自分が標的としてここに来させられたって事、知ってい</p>		<p>ダストン「——つまり、報告する事は使命に含まれていなかった——。 (顔上げ)フレディ！」</p>	<p>(off) 事件解決に於けるあなたの功績は、社の方に報告する事が出来ます」</p>	<p>← (こぼし) ←</p>	<p>フレディ「(微笑)御心配なく。我々に、感情はありません。 本来は——</p>

	3 27	3 26	325	3 24	
	向くダストンとフレデイ と、フラッシュ 写真となり、TB 新聞になつてゐる：	ロジャー、ドロシーの肩に 手をおき、帰ろうと促す。 来る女記者とカメラマン。	ダストン 答礼	フレデイ 姿勢ただし、 敬礼	
	ダストン・フレデイ「——！」 (SE) ボム	ロジャー「……」 女記者 「ダストン大佐、パラダイムプレス の者です。お話を——」		フレデイ「——ご協力に、感謝します」	たのか？」

「To Be Continued」







